

# 図書館だより

開館時間（共通）9：00～17：30  
 中央図書館 ☎ 0558-76-5566  
 葦山図書館 ☎ 055-949-8605  
 URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>



## 今月のおすすめ



一般  
 【中央】  
 【葦山】

**天を測る**  
 今野敏／著  
 講談社

長崎海軍伝習所一期生。咸臨丸の太平洋横断、江戸湾海防計画、軍艦建造。論理力で欧米列強を圧倒し、近代日本の船出を陰で支えた小野友五郎の物語。著者初の幕末小説。



一般  
 【葦山】

**自転車に乗って**  
 三浦しをん／ほか著  
 河出書房新社

自転車にまつわるエッセイ、小説、詩などを集めた27人による短編アンソロジー。最も身近な乗り物が、私たちの生活にもたらす喜び、楽しみを味わう。



一般  
 【中央】

**足利の血脈**  
 秋山香乃／ほか著  
 PHIP研究所

古川公方誕生、堀越公方滅亡、国府台合戦、河越夜合戦、足利義輝弑逆、織田信長謀殺。「足利」で紡がれるもう一つの戦国史。実力派7名の書下ろしアンソロジー。



一般  
 【中央】

**遺言未滿**  
 椎名誠／著  
 集英社

人間は、自分がいつか必ず死ぬということを知っている。年齢76。作家、ときどき写真家がカメラを抱えて迷い込んだ“エンディングノート”をめぐる旅。

## 新着本コーナーから

- |    |             |               |
|----|-------------|---------------|
| 一般 | 野良犬の値段      | 百田尚樹／著【中央・葦山】 |
| 一般 | 境界線         | 中山七里／著【中央・葦山】 |
| 一般 | コロナと潜水服     | 奥田英朗／著【葦山】    |
| 一般 | 男の業の物語      | 石原慎太郎／著【葦山】   |
| 一般 | 1日5分からの断捨離  | やましたひでこ／著【葦山】 |
| 一般 | 暮らし華やぐ実用折り紙 | 小林一夫／著【中央】    |
| 児童 | こわいみちまわりみち  | 松丸未来／原案【中央】   |

## 3月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	⑧	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

○中央休館日 □葦山休館日  
 ◇両館休館日 ☆おはなし会

## 3月のおはなし会

中央図書館 13日(土) 11:00～  
 葦山図書館 13日(土) 14:00～  
 27日(土) 14:00～  
 ○感染防止対策を施したうえで実施します。

## お知らせ

### 図書館に来なくても予約や延長ができます。

図書館にある本などの予約は、電話やホームページでも受け付けています。  
 借りている本などの延長は、予約がなければ、1回に限り電話やホームページで手続きできます。  
 電話の際は、お手元に利用者カードをご用意ください。  
 ホームページでログインする際は、利用者カード番号とパスワードが必要です。  
 パスワードを持っていなかったり、忘れてしまったりした場合には、窓口で発行します。利用者カードと身分証明書を提示してください。

# 文化財通信

## その189

### 伊豆の国市からはじまる北条義時の足跡

#### 第3回 北条義時はどんな人？ その2

〔義時の生涯／前半期〕

文化財課 ☎ 055-948-1428



山木館攻めの推定ルート

北条義時の足跡第3回は、義時の生涯を追っていきます。義時の人生には、3つの大きな転換点がありました。その1つ目は、義兄である源頼朝の挙兵です。  
 治承4年(1180)、義時18歳の時、頼朝が平家方の伊豆の目代(代官)である山木兼隆を攻め、打倒平氏の旗を掲げました。当時、頼朝は北条時政の館(史跡北条氏邸跡)か、その周辺に住んでいて、兼隆の館は山木地区にありました。つまり、頼朝の挙兵は、伊豆の国市内で行われた歴史的な大事件なのです。  
 『吾妻鏡』に挙兵のようすが詳しく記されていますので、それをもとに兼隆討伐のドラマを再現してみましょう。  
 挙兵の行われた8月17日は、三島神社(現三嶋大社)の祭礼の日です。館の警護が手薄と見て、この日を選んでみましょう。北条時政・義時たち軍勢は、「牛嶽大路」を経由し

「肥田原」まで進みました。現在の原木駅の東側に2カ所「牛嶽」の小子字があります。途中、佐々木兄弟が別働隊として「山木の北」にいる兼隆の後見人「堤信遠」の館を攻めます。一方、時政たちは、そのまま南下して兼隆の館に向かい、館の前の「天満坂」から矢を放って戦いがはじまりました。頼朝を警護していた加藤景廉たちも、加勢に向かうよう命じられ、「馬に乗らずに蛭嶋通の堤」を走り、ついに兼隆を討ち取りました。  
 兼隆の館、堤信遠の館の正確な位置はわかりませんが、兼隆の館は、「吾妻鏡」では「天満坂」、『豆州志稿(増補)』では「上ノ山」にあると書かれているので、山木地区の高台のどこかでしょう。堤信遠の館は、多田地区にあった可能性が考えられます。さて、3日後、頼朝や従う武士たちは、味方の三浦一族と合流するた

め、東に向かって伊豆を出発します。この時従ったのは、時政・義時はじめ47名の伊豆・相模・駿河の武士たちでした。しかし、石橋山(小田原市)で平氏方の大庭景親と合戦に及び、頼朝軍は敗れ、現在の湯河原町から箱根町にかけての山中を逃げ惑いました。時政・義時も頼朝と別れ、別行動をとります。その後、頼朝は土肥実平の手配によって、船で真鶴岬を出発し、房総半島の狹島(千葉県銚子市)に上陸しました。時政・義時も同様に海を渡り合流しました。上陸後、頼朝は関東の武士を従えながら進み、10月6日、鎌倉に入りました。まさにこの時が「鎌倉殿」の誕生、実質的な鎌倉幕府の成立といえるかもしれません。  
 鎌倉での義時は、頼朝の側近として、常に近くに仕え、心許される家臣となっていました。武芸も得意であったことから、合戦や巻狩、上洛の折も親衛隊として行軍の一翼を担ってました。義時は頼朝から多くのことを学んだことでしょう。  
 正治元年(1199)、主君であり義兄である頼朝が急死しました。その時が義時の2つ目の転換点ですが、それは次号でお話ししましょう。